独自の梁受け金物「スカイジョイント」

ハイブリッド工法の標準化が進む

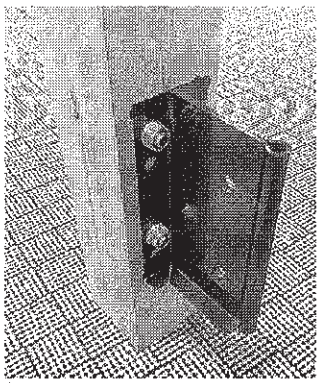
スカイ

カイ（静岡県磐田市、高橋幸嗣社長）は、梁受け部などの仕口欠損問題に対応する金物として、オリジナル梁受け金物「スカイジョイント」を展開している。在来仕口とスカイジョイントの併用物件は11年実績で月間90棟と増加傾向が続いており、「震災の影響で躯体強度への関心が高まったほか、施工性向上を目的に採用するケースが増えたようだ」（高橋社長）と話す。

スカイジョイント法は210～450㍉。意匠登録済みで、日本住宅・木材技術センターによる性能認定（Sマーク）を取得している。

金物工法については、同社では専用ライン（豊岡金物工場）を運営して各メーカーの主要10種の金物に対応している。同社のプレカット加工量は月間約1万坪（11年実績）だが、フル金物及び金物併用によるハイブリッド工法の物件は約80％に拡大し、今後も公共施設等の大型木造物件の建設増加で金物工法の採用は増加するとみる。

今後は提案体制を強化するとともに、今夏には加工ラインの移転・集約と金物対応ラインの新設（4日付既報）を行い、需要対応力の拡充を図る。



梁受け金物「スカイジョイント」

東海地区の大手プレカット事業者であるス

「ウッドテック」をオープン展開

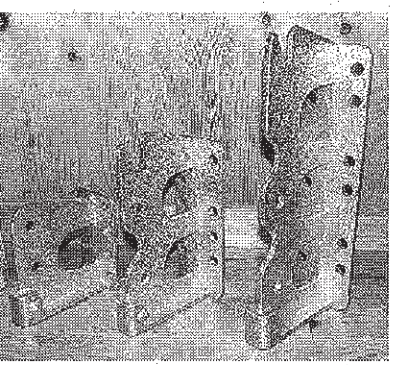
施工性や美観、汎用性が特徴

ロジー

ウッドワイステクノロジー（静岡県浜松市、齋藤幹

ッドテックの供給規模は月間5棟ペースで、今後は全国を対象に協力プレカット工場を募

物回りの美観性を向上させており、コーチスクリューボルトのみを使用するため施工性が



ック（柱脚柱頭金物と梁受け金物3種）

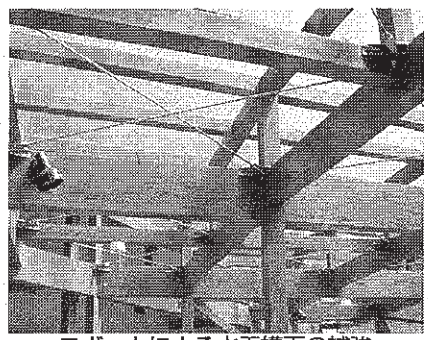
用金物、構造用集成材を組み合わせた大スパン門型フレームのウッドワイスラーメン構法についても、間取りや予算別の

耐震性能と簡易施工性が強み

耐震リフォーム需要が大幅増

国元商会

東日本大震災を契機に、国元商会（大阪市、前泉正信社長）が開発した三次元耐震補強システム金物「コボット」が、木造住宅の耐震改修や補強ニーズの増加を受けて、出荷が急拡大している。自治体のなかには独自の住宅耐震改修補助を行うケースもあり、複数の自治体でコボット接合金物で、独特の卵型形状が三次元の力を面当たり30分程度で取り付け可能で施工性能が良い。



コボットによる水平構面の補強

コボットは95年1月17日に起きた阪神淡路大震災で多くの木造軸組住宅が全半壊したことを教訓に、「木とともに耐えられる良い金物を」（同社）という考え方に基づいて開発された柔構造の木造軸組住宅に合わせた万能型金物であるコボット本体に、ステンレス製の筋違をたすき掛けに接合させたもので、新築にとどまらず、既設住宅や商業建築物、社寺仏閣等の耐震改修にも使われる。

同システムは04年と08年に国交省大臣認定を通じ、優れた壁倍率、壁強さ倍率が認められた。認定壁倍率は半間（910㍉）で2・7倍、壁強さ倍率5・

受け止め、変形しながら吸収する。コボット壁用システム（コボット壁用ステンブレースシステム）は、万能型金物であるコボット本体に、ステンレス製の筋違をたすき掛けに接

アンカーボルト「アンカーマン」で優れた基礎造りを

ビスダックジャパン

ビスダックジャパン（大阪府堺市、橋詰出社長）は経済産業省「地域産業資源活用事業」の認定を受け、コンクリートの食い付き

考えるため、アンカーボルトの開発から考えられた製品。

従来のアンカーボルトよりも耐震性に優れたアンカーとして独自